資料17－5

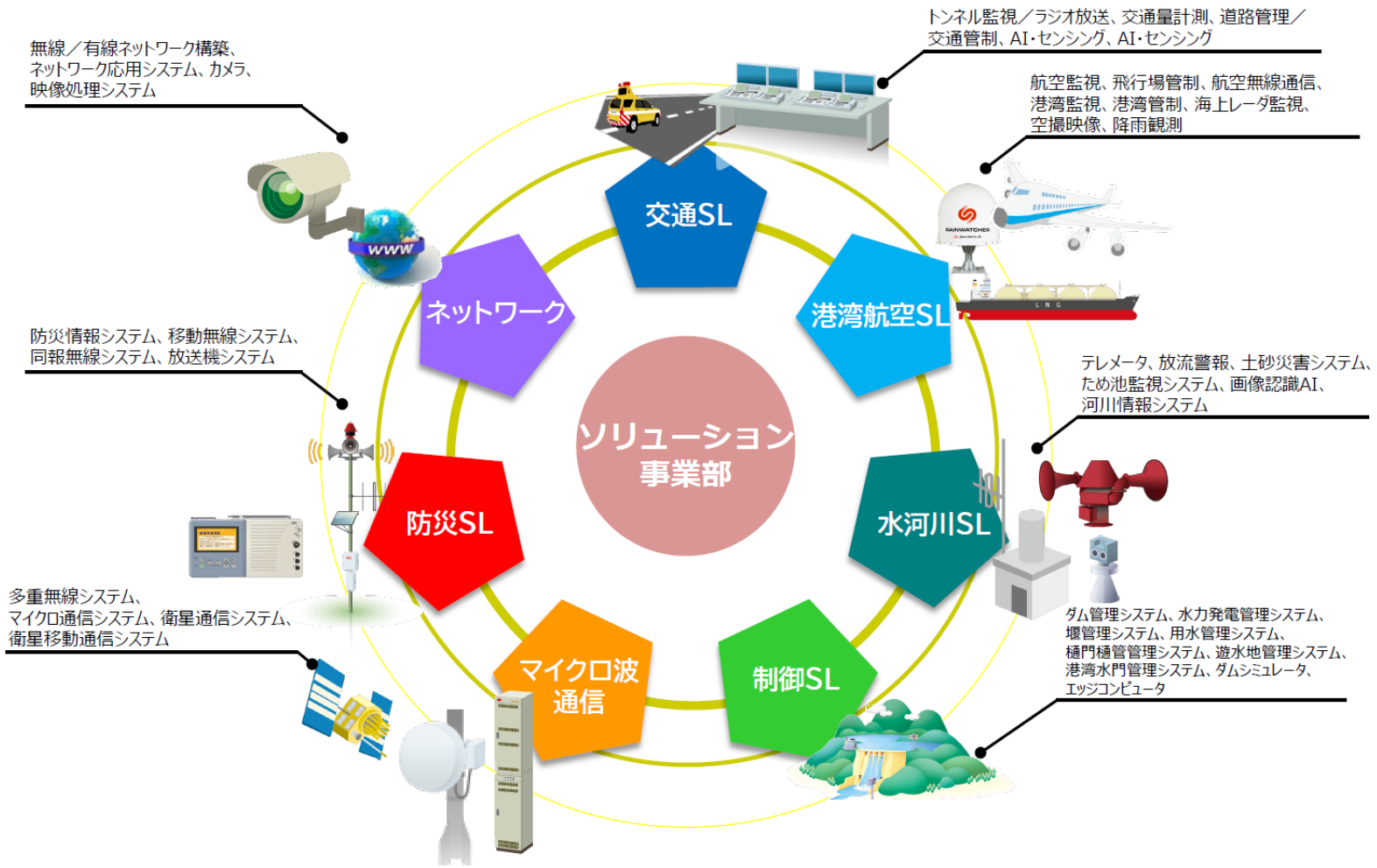
# 弊社における研究開発状況について

2026年11月

JRC 日本無線株式會社

# はじめに

**日本無線株式会社は、無線通信と情報処理を含めた**
**トータルソリューション・カンパニーです。**



# はじめに

## 官公庁を中心に、無線・情報処理を活かした
## さまざまな防災向けシステムを開発・製造・納入(工事)・保守まで一貫で行っています

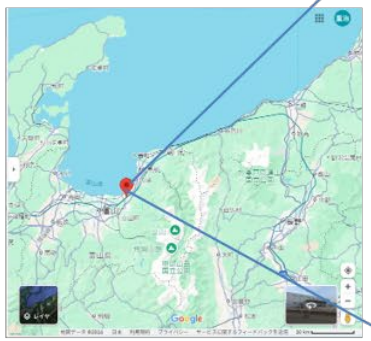



http://www.jrc.co.jp/jp/index.html

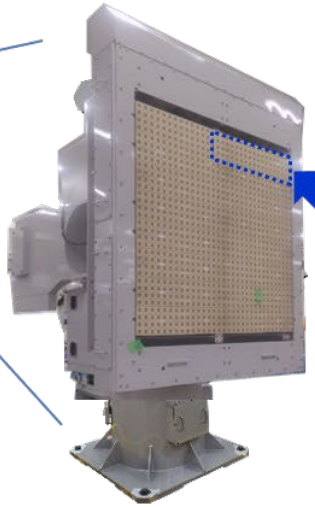
# 現在の研究開発例(1.C帯フェーズドアレーレーダ)

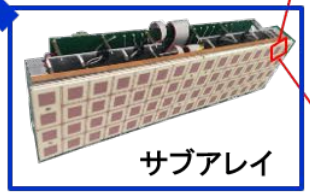
**将来的なC帯フェーズドアレイ気象レーダ導入を目指し,**
**小スケール実験局による気象観測実験を実施中** (2024年8月より10年間を予定)

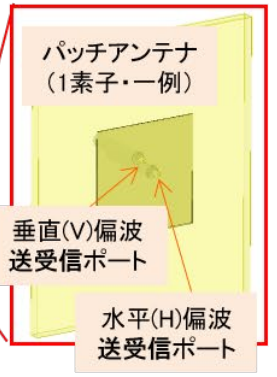
設置場所:富山県滑川市
(弊社代理店の敷地内)



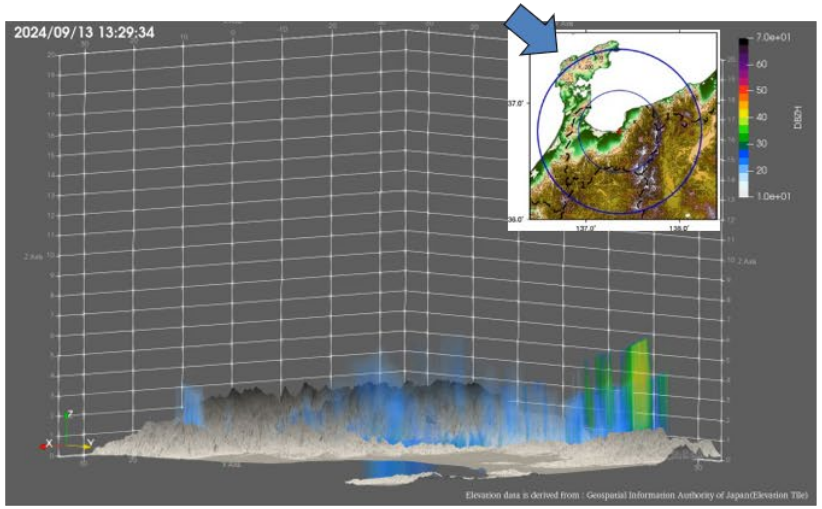




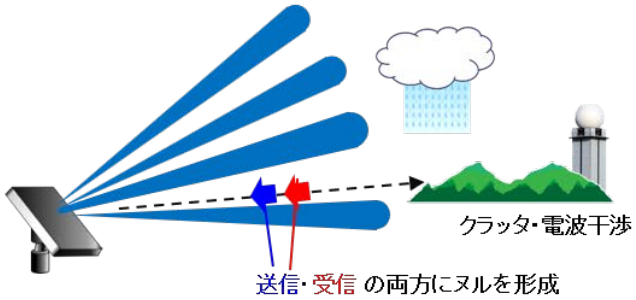



水平/垂直 の両偏波を
送信/受信 可能なパッチアンテナが,
全1024素子 搭載



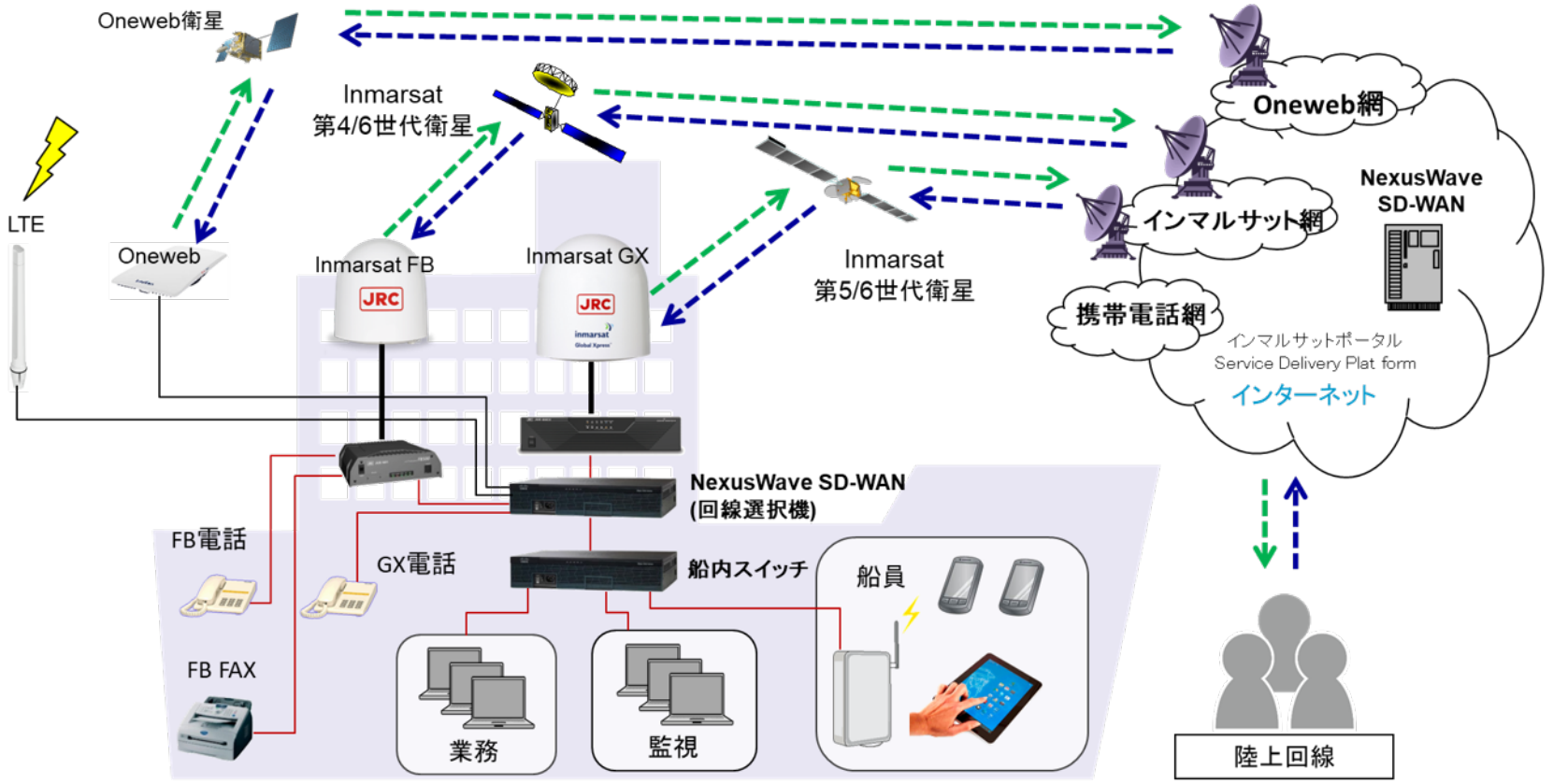

初期観測結果:積乱雲の三次元観測に成功



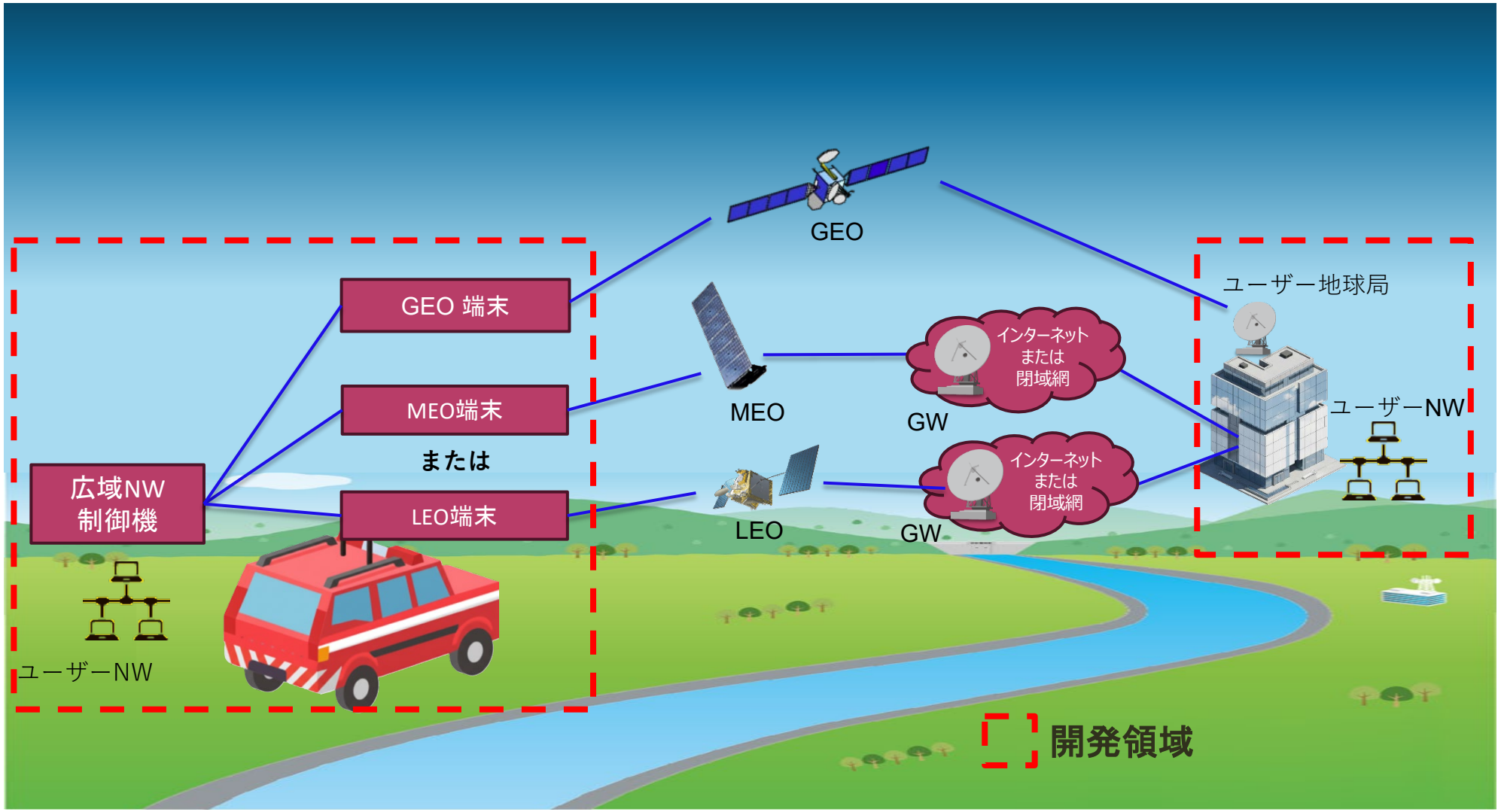

既存PAWRに無い送受信アンテナ構成により,
観測精度の向上と使用周波数帯域の削減を両立し,
電波資源の有効活用に資する観測を実現可能

# 現在の研究開発例(2.衛星マルチオービット地上局)

## インマルサット「NexusWave」サービス



# 現在の研究開発例(2.衛星マルチオービット地上局)



# 課題について

## 課題

当社研究開発は、各省庁様のご意見・ご要望のもと、高度な技術の実現に取り組んでいます。
しかしながら、市場が入札形式となり民間企業としてはリスクが有ること、
また、費用面においてもマッチングが難しい状況が現実です。

## 総務省様への期待

当社開発品を含め、社会実装へのロードマップを　より具体的なものとするための
「官民共創の取り組み」が必要と考えます。
例えば社会インフラ整備担当の官公庁における具体的な整備計画の策定、予算措置についてや
省庁間連携によるマルチユースを軸に、国民生活に関連するサービスに必要なインフラ投資について
具体的な議論の場、コンソーシアムやフォーラムなどの設立などといった動きを
ご主導・ご先導いただけることを期待します。